

すばらしき“みえ”

FOR NICE COMMUNICATION

2026.6

252号

■特集／三重の観光地域づくり法人 DMO

●いま、グループネット／菟野町郷土研究会 ●みえを歩こう／南伊勢町 宿田曾の浅間山から「ボラ番小屋跡」へ



三重の観光地域づくり法人 DMMO

地方での人口減少、高齢化が進むなか「観光」を地域活性化の原動力にしようとして活動しているのがDMMO(観光地域づくり法人)です。Destination Management Organization(オランダ語)の頭文字で、欧米を発祥としており、平成27(2015)年から観光庁が「日本版DMMO」の登録制度を開始しました。

観光を地域経営の視点で捉え、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域住民が自らの地域に誇りを持ち、愛着を感じられるような持続可能な観光地域づくりをめざしているのが特徴です。県内でも14法人のDMMOが活動をしています。

※各施設の営業日時・料金・予約方法や受け入れ人数などには違いがあり、状況に応じて延期や休業する場合があります。事前に必ずご確認ください。

取材・文：堀口裕世・中川絵美子・大島千佳
撮影：梅川紀彦・松原豊・尾之内孝昭
ただし※印の写真は取材先から提供していただきました

三重県の観光地域づくりの司令塔

公益社団法人 三重県観光連盟

〔津市羽所町〕

三重県内の観光情報をまとめた「観光三重」の冊子やWEBサイトを見たことがある人も多いのではないだろうか。その制作をしているのが「公益社団法人三重県観光連盟」です。

DMMO(観光地域づくり法人)は、対象とするエリアの広さに応じて「広域連携DMMO」「都道府県DMMO」「地域DMMO」の3種類に区分されます。三重県観光連盟は都道府県DMMOとして、三重県の観光における中期・単年度の事業計画づくり、国内外への観光マーケティングやプロモーション、地域データの活用支援、また

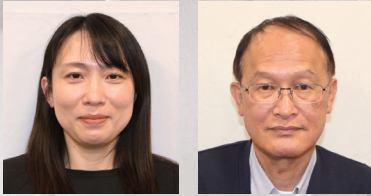
県内の地域DMMO(13法人)の育成や支援を行っています。

具体的な活動は例えば、旅行者アンケートなどがあります。これまでは県行政、三重県観光連盟、地域の観光事業者がそれぞれバラバラに観光客にアプローチしており、三重県としての強みが活かされていないという課題がありました。そこで、同連盟がアンケートのシステムを作成し、各地域DMMOなどが観光客にアンケートを実施、回答データの集計・分析を同連盟が担い、その分析結果を各地域DMMOなどが地域での観光計画に活かす…とい

う役割分担を行っています。

また地域DMMOに対しては、観光戦略の策定の支援、地域の観光資源商品の商談のサポート、国内誘客、プロモーションなど、地域DMMOが取り組みにくい広域的な視点でのサポートを担うのが役割です。とりわけ令和6年度からインバウンドに注力しており、インバウンド委員会を設立し、台湾・タイ・シンガポールなどアジアをターゲットに取り組んでいます。

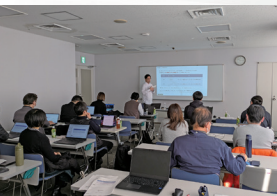
「三重県全体の観光の魅力を高めるために、地域DMMOと協力連携しながら、基盤づくりに取り組んでいます」と事務局次長の金丸幸穂さん。三重県の観光の縁の下の力持ちとして、なくてはならない存在となっています。



金丸 幸穂さん 寺本 久彦さん



インバウンド委員会※



旅行者アンケート研修会※



ボランティアガイド全体研修会※



ファムトリップ(鬼ヶ城)※

お問い合わせ

公益社団法人 三重県観光連盟
TEL 059-224-5904

※印の写真は取材先から提供していただきました

自然に恵まれた「湯の山温泉」の新しい魅力をカタチに！
一般社団法人

菰野町観光協会

【菰野町菰野】



「尾高高原キャンプ場」で灯された「湯治のあかり」
数か所ある夜景スポットや宿泊客限定スポットで、特別なひとときが楽しめます※

鈴鹿山脈の最高峰、御在所岳の麓に広がり開湯1300年の歴史を誇る「湯の山温泉」。「湯の山温泉」と御在所岳の山上を結ぶ「御在所ロープウェイ」。豊かな自然に恵まれた菰野町の観光スポットでは四季折々の景観が広がり、訪れる観光客の心を掴みます。そんな菰野町の観光を中心となってささえているのが、一般社団法人菰野町観光協会。令和4年に観光地域づくり法人(DMO)として登録されました。もともとは任意団体として昭和32(1957)年

に菰野町役場内で設立され、DMO登録を目的として平成30(2018)年に法人化。地域や地域の観光事業者の架け橋となり、菰野町の観光振興を担っています。

菰野町観光のテーマは「自然とおもてなし」。「菰野町に来ていただいた方に、この地で癒されて笑顔で帰っていただければ」と、菰野町観光協会イベント企画やマーケティング、プロモーション活動に携わる堀内さんは話します。年間を通じてさまざまなイベントを行っているなか、昨年8月に初めて開催された「湯治のあかり」は、日帰り客が多いという課題解決のために考案されたイベントの一つ。それまで少なかったナイトコンテンツの開催により、夜の滞在時間を増やして宿泊客を増加させようと、「湯の山温泉」の各旅館とタイアップのもとで行われました。湯の山の夜



堀内 あかねさん※

景スポットに浮かぶ「LED浮遊ランタン」が放つ、幻想的なフォトジェニック空間が好評で、今後も継続予定です。開催半年前に台湾のインフルエンサーをモニター招待し、SNS発信してもらうなど、イベント告知の方法にも工夫が光ります。

また、ゆるい登山や「山ガールブーム」が年々加速しているなかで、初心者でも楽しめるように、ボランティアガイドを付けた登山ツアー「THE HIKE HIKE (ザ・ハイク)」も人気の定着イベント。参加者の約半分が登山未経験の若い方で、毎年春と秋に開催しています。昼食

には、菰野町特産品のマコモなどを使用した「菰野藩主弁当」を提供。告知はSNSやWEBで発信し、おしゃれなイメージ戦略

も功を奏して、毎回大盛況のイベントになっています。ほかにも温泉とウォーキングを組み合わせた「ONSEN・ガストロノミーウォーキング」や、「KOMONO 美巡旅」など、さまざまな企画が



【THE HIKE】の昼食「菰野藩主弁当」※

盛りだくさんです。現在開催している「ジオウェルネスラリー」は、菰野町を訪れた方が気軽に参加できるデジタルスタンプラリー。町内事業者の協力のもと、参加者は楽しみながら特典を受けられて、主催者側はデータ収集と分析が自動的にできる、地域・観光客・主催者側にとって三方良しの仕組みです。集めたデータの活用により、さらに魅力的な今後の菰野町観光振興に注目です。

お問い合わせ

一般社団法人 菰野町観光協会
TEL 059-394-0050



「湯の山温泉」と「御在所ロープウェイ」※



【THE HIKE in 御在所岳】※



【ONSEN・ガストロノミーウォーキング】※



毎年好評！観光列車「つどい」足湯列車※



「ジオウェルネスラリー」のコンプリート賞品

※印の写真は取材先から提供していただきました

城下町・芭蕉ニニンジャ：魅力は無敵大

一般社団法人

伊賀上野観光協会

(伊賀上野DMO)

【伊賀市上野】



ニンジャになって、認定をゲット！※



忍者の聖地をめざして世界中から観光客が集まります。忍者について学べる「伊賀流忍者博物館」をはじめ、忍者に変身して観光できる「忍者変身処」、町なかで忍者修行体験ができる「伊賀忍者道場」、颯爽と町を走る忍者列車、昨年8月には伊賀流忍者体験施設「万川集海」がオープンするなど、多彩にニンジャを楽しめるのが、忍者市「伊賀市」。

また今年でユネスコ無形文化遺産登録10周年を迎える上野天神祭は、華やかな町人文化の歴史の深さを現代に語り継いでいます。

そんな伊賀市の観光まちづくりの旗振り役を担うのが「伊賀上野DMO」。伊賀市、上野商工会議所、伊賀市商工会、伊賀上野観光協会の4者による協議体で進められています。事務局長の中浦順一郎さんと事務局次長の安田聡志さんにお話を伺いました。「4つの組織が協業し、それぞれの強みを活かした観光業だけではない製造業、農業など、幅広い事業者とのネットワーク構築、情報収集、受入環境整備、情報発信に取り組んでいます。」「マーケティングに取り組み、伊賀観光の動向を地域事業者と共に、各種プロ



事務局次長の安田 聡志さん



事務局長の中浦 順一郎さん

モーションや、研修なども一元的に行っています。またテーマ別の



「伊賀イド」は情報満載



テーマを絞った旅を提案

の観光パンフレットや周遊マップの作成、オウンドメディアによる情報発信を行い、誘客に取り組んでいます。さらに、「インバンド向け高付加価値旅行商品の造成にも取り組んでおり、本物を求めるお客さまに向けて、伊賀の歴史文化を深く理解できる本格的な体験の販売を始めています。また、「市民に向けたインナープロモーションとして『伊賀の

これからを考える』をコンセプトにした『アガコレ観光EXPO』を開催、中高生を対象にした『伊賀学王決定戦』や、多方面で活躍する地域事業者を紹介する企画や伊賀の食など、伊賀市の魅力をより深く知ってもらうことにも取り組んでいます。

昨夏オープンした「旧上野市庁舎 SAKAKURA BASE」は、坂倉準三氏が設計した旧市役所をリノベーションした複合施設で、現代的なホテルとカフェ、市立図書館、同観光協会が運営する土産物店「伊賀百貨 Souvenir Shop」と観光インフォメーションセンターが入居し、市民や観光客が楽しめる施設となっている。内に外に発信を重ね、伊賀のまちは一層賑わっていくことでしょう。

お問い合わせ

一般社団法人

伊賀上野観光協会(伊賀上野DMO)

TEL 0595-12617788



「伊賀流忍者博物館」



「ニンジャになりたい」と世界中から※



「白鳳城」とも呼ばれる「伊賀上野城」



「伊賀学王決定戦」で学びを促進※



「伊賀百貨」は多彩な品ぞろえ

※印の写真は取材先から提供していただきました

「遷宮を機に世界中から伊勢志摩へ
公益社団法人

伊勢志摩観光コンベンション機構

「伊勢市二見町」



志摩市の「横山展望台」から英虞湾の絶景を見る

風光明媚な伊勢志摩地域に、イベントなどの誘致や情報発信などを展開してきた伊勢志摩観光コンベンション機構。「ここでは、市町やそれぞれの観光協会

という枠を超えて、県も含めた官民一体の組織で、広い視野でさまざまな企画やプロモーションを行っています」と話すのは、須崎 充博さん。幅広い人脈と知

識を駆使して地域の観光をプッシュする仕掛け人と評判の専務理事です。「伊勢志摩地域には神宮という日本文化の核があり、豊かで美しい自然と歴史に恵まれた素晴らしい場所でしょう。世界中から、たくさんの人に来てほしいんですよ」と地元愛が溢れます。「伊勢志摩フィルムコミッション」としての映画などの撮影誘致や、伊勢志摩サミットに代表される大規模会議・MICEの誘致と支援、万博や東京ミッドタウンでのイベントなど多彩な活動で衆目を集めてきた「伊勢志摩観光コンベンション機構」ですが、「今春から『いせしませんぐう旅』という新事業を開始しました」とのこと。



専務理事の須崎 充博さん※

カード』を集めてもらうという企画です。昨年からは始まった神宮式年遷宮がきっかけですが、伊勢だけではなく、広い範囲で楽しんでいただきたいと思っています。「旅札カード」は名刺大のカラフルなカードで、スポットごとに違うおしゃれなデザイン。配布している名所やスポットに行つて手帳を見せることでそれぞれのカードをゲットできます。手帳には日付やメモを書き入れるスペースがあり、「旅札カード」以外にも、名刺や写真などを入れて思い出を残すのも楽しそうです。「伊勢志摩地域の各

所その他、玉城町などにもカードを置いてあるスポットがあります。これから三重県内全域へどんどん広げていきたいと思っています。カードをつくりたいお店や団体の方もご連絡いただきたいですね」と、7年後の遷宮に向けて、意気軒昂です。ほかにも、応援商品の開発や「結びの旅」のデジタルスタンプラリーなど、さまざまな企画が展開されています。



「旅札」を持って伊勢志摩へ※



カラフルな札を集めて※



田丸城跡も「せんぐう旅」に参加



ハートの入り江が見える見江島展望台にも※



二見浦の夫婦岩にも「旅札カード」が※



「せんぐう旅」のグッズも充実※

お問い合わせ

公益社団法人
伊勢志摩観光
コンベンション機構

TEL 0596-44-0800

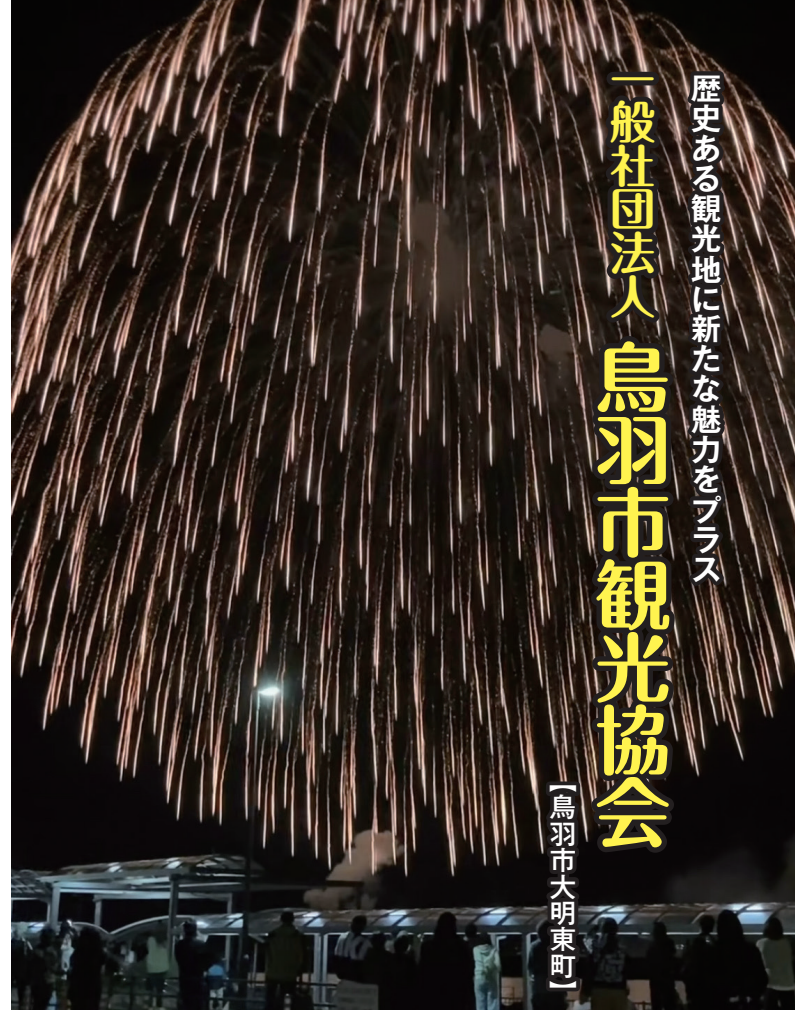


※印の写真は取材先から提供していただきました

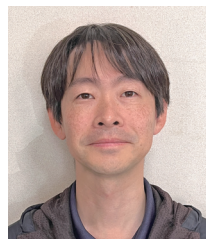
歴史ある観光地に新たな魅力をプラス

一般社団法人 鳥羽市観光協会

【鳥羽市大明東町】



「九鬼 嘉隆プロジェクト」で行われた「九鬼水軍大花火」※



事務局長の
大村 佳之さん

鳥羽市は、古くから有名な観光地。きらめく海と個性あふれる文化を持つ島々、伊勢海老やアワビなどの美味しい海の幸、九鬼水軍の歴史、海女小屋体験、「ミキモト真珠島」、「鳥羽水族館」…と魅力は枚挙にいとまがないほどです。

お話を伺ったのは、鳥羽市観光協会の事務局長・大村 佳之さん。「当協会は、平成28（2016）年から、観光庁が推進する地域DMOに登録されています。観光客の動向やニーズを把握し、データを活用したマーケティングの推進が必

要とされる時代ですので、収集したデータを活用することで、地域全体での観光プロモーションや受入環境の向上に役立てるとともに、地域の魅力発信の強化を行っています。今までによく知られてきたポイントに加えて、新しい鳥羽の魅力も知っていただきたいと思っています」のことは通り、「鳥羽市観光協会では、商品開発、ブランド作りなど6つの委員会をつくって観光事業や安全なまちづくりの推進などを行って



「答志島トロさわらの脂のり」は「伊勢湾の奇跡」※

た『答志島トロさわら』は9年目を迎え、これを目当てに鳥羽に来られるお客さまも増えてきました。また、九鬼 嘉隆プロジェクトでは歴史的な魅力を体感していただけるイベントなどを行いました。鳥羽城跡の整備も進み、歴史ロマンを求める方が増えました。

鳥羽市のふるさと納税業務も現在、観光協会が引き受けています。「昨年も約11億円のご寄付をいただきました。1000点を超える返礼品をご用意しており、お客さまが実際に鳥羽を訪れた際に、宿泊や食事などに使うことも可能です。また、こちらにいらしたお客さま

に、現地ですらと納税をしていただき、すぐにポイントをお支払いに使用できるといいう形も進んでいます。話題の商品は？と伺うと「鳥羽水族館にいるラッコの『キラちゃん』と『メイちゃん』が大人気なのですが、水族館とのコラボ商品『きら』と『めい』というめ

いし」のめいしを出したところ、即日完売でお問い合わせも多かったですね」とのこと。最近、鳥羽市の神島をモデルとしたゲーム「パラノマサイト」が流行していて、その聖地巡礼に来る人々も多いといえます。楽しい、美しい、美味しい、癒やされる…などの魅力に「かわいい」や「推し」に逢う」も加わって、鳥羽市の魅力はどんどん更新されているようです。

お問い合わせ

一般社団法人 鳥羽市観光協会
TEL 0599-12513019



「ばえる、写真を撮るなら「鳥羽城跡」へ



海と島には限りない魅力が※



カモメと親しむ※



アワビの豊漁に海女さんにもっこり※



採れたてのカキを心ゆくまで※

※印の写真は取材先から提供していただきました

東紀州地域の魅力を発信

「一般社団法人

東紀州地域振興公社

〔熊野市井戸町〕



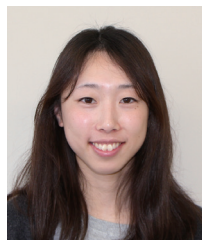
「熊野古道語り部」によるガイド※

世界遺産・熊野古道伊勢路がある東紀州地域。「一般社団法人東紀州地域振興公社」は、平成6（1994）年に発足した協議会を前身とし、地域の観光と産業のプロモーションを一体的に行う組織として平成19（2007）年に設立。令和5年にDMOとなりました。対象地域は、尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町の5市町。熊野古道の語り部の派遣や古道の保全活動の支援、古道を始めとする地域の観光資源を活かした

誘客、伝統工芸品や特産品のセールス活動などに取り組んでいます。

特にDMOとしては、関係団体とともに地域全体の観光戦略の策定、個々の観光事業者では取り組みにくい地域観光の全体的なプロモーション、観光に関するデータの調査・分析をし、それらを市町に情報提供しています。また広域的な視点から観光の課題の洗い出しと対応も行っています。例えば、東紀州地域は大規模なホテルはありませんが、民宿やゲストハウスは増加しています。これらの情報を集約し、旅行者が分かりやすいかたちにして発信する役割などを担っています。

「伊勢路の魅力は、山や海などの豊かな自然を感じられることももちろんですが、この地域



牧野 好美(このみ)さん



横平 修一さん

で暮らしてきた人々の生活文化と密接につながった歴史があることが最大の魅力です。歴史や文化を知ることによって初めて世界遺産として実感できます」と次長兼観光課長の横平修一さん。活動の中では、古道の魅力や歴史を伝えるガイドの派遣も実施しており、昨年は個人やツアー客など564件、10026人（1月から12月の合計）が利用されました。

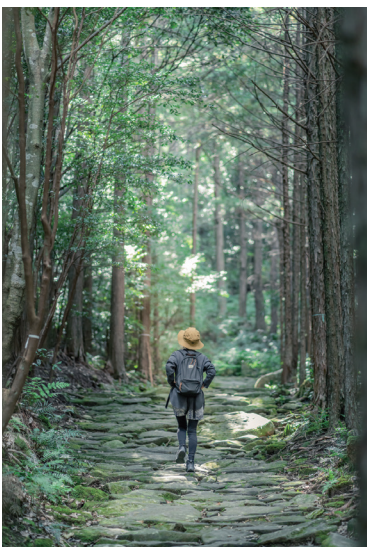
また地域全体のインバウンドへのプロモーションも担っています。調査データの分析によると東紀州地域は欧米、特にドイツからの旅行者が多いということがわかりました。ドイツには街道文

化があり、歩くことが好きな国民性からも東紀州との親和性が高いのではないかと、いう仮説を立て、そこで昨年度はドイツの方を対象にしたモニターツアーを企画しました。古道歩きをメインに、木工体験で地元の職人と触れる体験、尾鷲市のナイトホッピング（居酒屋やスナックのはしごツアー）などを取り入れたモニターツアーを企画・実施し、ドイツの旅行事情に詳しい方の意見をいただき、磨き上げているそうです。

また海・山・川の全ての自然を感じられる地形を活かして「サイクリングポイントサイト」を立ち上げ、サイクリングを軸とした観光客の呼び込みなどにも取り組むなど、東紀州まるごとへの豊かな地域資源を活かし、それを次世代につなげるような地域活性化に取り組んでいます。



サイクリングのようす※



熊野古道・馬越峠※



モニターツアーのようす※



獅子岩(熊野市)



岩屋堂(尾鷲市)※

お問い合わせ
一般社団法人 東紀州地域振興公社
TEL 0597-8916172

※印の写真は取材先から提供していただきました

菰野町郷土研究会

1980年に設立された町民による自主サークル「菰野町郷土研究会」。菰野町の歴史や文化を学び、次世代に伝えることを目的として、菰野町大羽根園に住んでいた医師、故・三輪 龍男氏が発起人となり、当時の郷土資料館の館長、郷土史研究者であり菰野町名誉町民の故・佐々木一氏に講師を依頼したことでスタートしました。現在会員は56名。佐々木氏から学んだ、郷土の歴史や文化、風土、人物伝などを子や孫に伝え続ける活動を中心に、毎月活動しています。



代表幹事 中村 誠さん

お問い合わせ

「菰野町郷土研究会」
TEL 090-8070-3055

今年9月に活動500回の記念回を迎える、歴史ある「菰野町郷土研究会」。今年度は500回記念に向けて、さまざまな活動を実施しています。「地域の方も知らない郷土のこと、郷土の歴史がまだたくさんあります。もつと興味を持ってもらい、記憶に残し、伝承できるように、この機会に地域を巻き込んで一緒に取り組んでいきます。」と語る、代表幹事の
中村さんにお話をお伺いしました。

——主な活動内容を教えてください

中村：毎月第2日曜に年10回のペースで、毎回テーマを決めて計画的に活動しています。佐々木先生が著された多くの

文献を教材に、会友が得意分野を担当したり外部講師を招いたりして、講座を開き知見を深め合っています。そのうちの年2回ほどは、オープン講座を開催。会員以外の方も募集し、菰野町郷土史跡などの文化財を訪れたり、バスで遠方へ出向き、他地域の文化や歴史に触れたりして勉強しています。昔のことはもちろんですが、企業訪問に行くなど、現代のことを含めて「地域」のことを学ぼうと意識して活動しています。また、地域の文化遺産活用実行委員会の一員としての活動や、文化財ボランティアとして清掃活動なども行っています。

——故・佐々木一氏の遺志をつないでいこうじゃないですか

とをされるのでしょうか

中村：500回の記念となる9月13日には、第一弾として、千種地区音羽の方々が500年もの間、護り続けている「虚空蔵菩薩」についての公開講座を「千種地区公民館ホール」で行います。オープニングでは、「三重県を中心に音楽活動をしている正水百代さん」と、「全日本リコーダーコンテスト」で最高賞を受賞したいなべ市の中学1年生、服部のどかさんのコンサートを予定しています。翌週19日には第二弾を「菰野町民センターホール」で行う予定です。ぜひ多くの皆さま

にご参加いただき、郷土・菰野への想いを共有していただければと思います。

——中村さん個人的にも伝承のための活動をされていますか

中村：はい、この地域の一人でも多くの方に菰野のことを知ってもらいたいという想いで、地元で朝行うラジオ体操のあとに「10分間お話し会」を10年程続けました。菰野町に伝わる民話や地元の偉人の話、歴史や文化などの「こぼなし」を、集中して聴ける、10分間に分かりやすくまとめ話します。これがけっこう盛況で、40人から50人、多いときには200名ほど

中村：佐々木先生は、発足当時から体調を崩される直前まで実に390回以上も一度も休むことなく、私たちに郷土・菰野のことを多岐にわたって教えてくださいました。親しみやすく、人情味があふれる民族的・郷土史研究者で、三重県文化奨励賞や文化庁・地域文化功労者賞など、数々の荣誉ある賞を受賞されています。また、たくさんの刊行本も著作され、特に「広報こもの」に1978年から36年間もの長期にわたって連載された、「歴史こぼなし」シリーズは、郷土の今昔がやさしい語りで紹介されており、今でも研究会の教材として使用しています。

——500回の記念回は、特別なこ

集まります。現在は自治会に引き継ぎ、継続中です。また、500回記念に向けた活動の一環として、地元の小学生に「音羽の虚空蔵寺にかかわる授業」をさせていただきました。この内容は記念回の講演につながる内容で、実際に虚空蔵寺で行ったので、子どもたちは熱心に興味深く聞いてくれました。興味のある方は9月13日(日)にぜひご参加ください。

——研究会では随時、仲間を募集中です。たくさんの方々には伝承されると良いですね。本日はありがとうございました。

インタビュー：大島千佳



故・佐々木 一氏 ※



南知多・三河方面への視察研修 ※



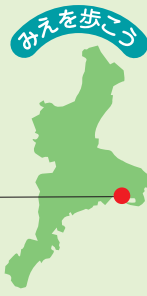
「朝の10分間お話し会」にて ※



音羽地区の虚空蔵菩薩 ※

500回記念パートI
2026年9月13日(日) 10:00~12:00
会場：「千種地区公民館ホール」
「音羽地区の虚空蔵菩薩」
入場無料

※印の写真は取材先から提供していただきました



みえを歩こう

豊かな海・山の自然の中を歩き
地域の信仰・歴史・産業に触れるコース
南伊勢町

宿田曾の浅間山から「ボラ番小屋跡」へ

熊野灘に面した美しい海と、緑豊かな山々に囲まれた自然あふれる南伊勢町。リアス式海岸沿いに数百メートルの山々が連なり、熊野灘や入り江が見渡せる絶景スポットが数多くあります。今回訪れたのは、志摩半島・五ヶ所湾の先端にある宿浦・田曾浦地区です。かつて遠洋漁業が盛んで、特に田曾浦は全国のカツオ一本釣り漁船の3分の1を占める、日本一のカツオ一本釣り漁業の郷として知られた場所でもあります。コースの中では、地元の住民の信仰を集める浅間山や、漁業の最盛期に使われていた「ボラ番小屋」など、地域の文化・歴史・産業に触れるコースを歩きます。なおコース内には舗装されていない登山道も含まれているため、登山用の装備をされていくことをオススメします。取材・文：中川絵美子



「宿浦区民センター」



カマの池



宿浅間山の登山口



正面に葛島を見渡せる

漁村の集落からウバメガシの林を歩く

今回の散策の起点は「宿浦区民センター」。宿浦漁港のすぐ近くの高台にあります。(バスの場合は「宿浦漁協前」下車すぐ)宿浦の集落を通り抜けるとカマの池という大きな池が見えてきます。海とつながっており「暴風や高潮から船を守るためにつくられたんかなあ」と坂本さん。穏やかな水面に停泊する漁船を眺めながら目の前にそびえる宿浅間山へと足を進めます。集落の外れに山

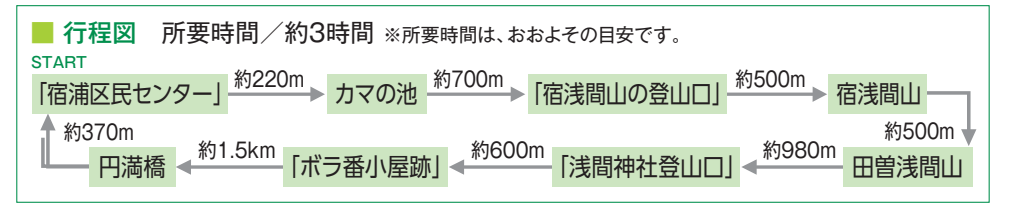
の斜面に沿ったコンクリートの階段が見えてきました。ここが「宿浅間山の登山口」です。階段を登りきると山道に入ります。いっきに登るので汗がふきだしてきますが、木漏れ日の道を無理せずゆっくりと進みましょう。道の両脇にシダの生い茂る道をしばらく登っていると、展望のよい場所に出ます。振り返ると正面に葛島や太平洋が見渡せます。まだ少し登りは続くので、休憩しながら進みましょう。尾根が近づくにつれ、登山道はウバメガシの林となります。南伊勢町の各地に自生するウバメガシは

海近くの環境で育つ常緑樹で、潮風に耐えて育つため密度が高く硬くなり、良質な備長炭の原木として知られています。ウバメガシのトンネルは、南伊勢ならではの風景といえるでしょう。登山口から約30分で尾根道(宿浅間山と田曾浅間山の分岐)に到着。ここから宿浅間山までは尾根沿いに約5分です。

地元の信仰を集める2つの浅間山
宿浅間山(181メートル)にはコンクリートでつくられた祠があります。昔は遠洋漁業に出た家族の安全を祈願



今回ご案内いただいたのは、「南勢テクテク会」会長の坂本 和敏さん。今年設立29年を迎える同会は、ふるさと発見と健康づくりを目的に、月1回程度南伊勢町周辺の登山を楽しんでいます。





「ボラ番小屋跡」



田曾浦漁港



遠洋漁業で有名な地域



宿浦と田曾浦をつなぐ円満橋

静かな中にも遠くから響く波の音やトビの声が聞こえ風情のある光景です。この地域では、かつて4月から6月になるとボラの大群がやってきて、そのボラの通り道を見張り、網をたぐる「ボラ待ち網漁」が行われていました。漁の際には田曾の人々が総出で舟を出し、網を張り、大漁に湧きたったそうです。この小屋は、ベテランの漁師がボラの大群を見張った場所です。大群を見つけると山道を走り、寺の上のオメキ山から里人に知らせるために大声で「喚いた」と伝えられています。「ボラの大群が来た日には小学校も休みにな

り、子どもたちも手伝いをしたそうですよ」と坂本さん。ボラ漁が衰退し、この小屋も石組みだけが残っていましたが、平成13(2001)年に地元の人たちと「南勢テクテク会」が協力し、屋根をつけて復元椅子なども設置し、登山客などが足を運びやすいように整備しました。帰りは田曾浦の集落までしばらく山道を歩きます。途中、山の中にもかつての畑の跡がたくさん見られました。「ここまで畑仕事しにくるのも大変だったやろなあ」と坂本さん。周囲が竹林になると田曾の集落はもうすぐ。集落へ出たら、

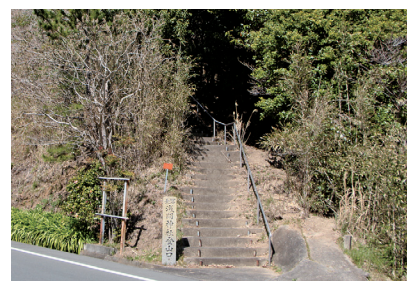
漁港まで降りて海沿いに戻りましょう。途中の道沿いには「日本のかつお村」と書かれたモニュメントや「遠洋漁業の里」と記された石標も見ることができます。「宿田曾漁港」から円満橋を過ぎると宿浦の集落に入ります。ゴールの「宿浦区民センター」はすぐそこです。南伊勢の海・山の眺望を楽しみ、地元産業や歴史、信仰にも触れることができるコースです。
*バスの本数の少ない時間帯がありますのでご注意ください。
問「南勢テクテク会」 会長 坂本和敏さん
TEL 090-33300-8766



宿浅間山・山頂の祠



田曾浅間山・山頂の祠



田曾浅間山の登山口

しに、地元の人達がお参りしていたそうですよ」と坂本さん。南伊勢町では約30の集落に富士山を信仰の対象とする浅間山(神社)があります。集落の裏山を富士山に見立て、山頂に祠や碑(浅間碑)をつくり木花咲耶姫や大日如来が祀られています。6月から7月にかけては、五穀豊穰・大漁祈願・無病息災を願って「浅間祭」が行われる地域もあり、地域に根付いた神聖な山々です。お参りした後は田曾浅間山へと向かいます。尾根道沿いに少し戻ります。木にまかれた赤い目印テープに沿って

歩いていくと、約15分で田曾浅間山(163メートル)に到着。こちらも白く塗られたコンクリートの祠があります。地元の方々が丁寧に管理されているのが伝わってきます。お参りをしたら、下山ルートに向かいます。途中、展望の良い場所があり、椅子が設置されています。真っ青な太平洋や御座白浜、浜島などの志摩半島を見渡すことができ、海と山に囲まれた南伊勢の自然の雄大さを感じることが出来ます。さらに降りていくと、山道からコンクリートの舗装路に代わり、周囲に山の斜

面に沿って作られた段々畑の跡が見えてきて、かつての生活の跡を見ることが出来ます。「この地域は平地が少なく、耕作できる土地が少なかったたので斜面を拓いて畑にしていたんですよ」と坂本さん。コンクリートの階段を降りると、国道260号沿いにある「浅間神社登山口」と書かれた石標がある田曾浦地区からの登山口に出ます。ここまでの所要時間は約2時間。このまま国道260号沿いに歩けば出発地点に戻ることができます。時間と体力に余力のある方は、もう少し歩いて「ボラ番小屋跡」へと向かいましょう。

太平洋の水平線広がる「ボラ番小屋跡」

「ボラ番小屋跡」へは、国道260号を横切り、田曾浦の集落の方へ向かいます。穏やかな二つの浜を通り過ぎ、山道へと入ります。30分ほど歩くと、前の崎の突端に石積み小さな小屋が見えてきます。「ボラ番小屋跡」です。海側は絶壁で、眼前には太平洋の水平線が広がります。

三重の祭り

国指定・選択/県指定・選択

香良洲の宮踊り

(津市香良洲町)

【開催日】8月15日



香良洲の4地区が香良洲神社に奉納する太鼓踊り。350年以上前から伝わるかんこ踊りの一種で「けんか祭り」とも呼ばれるほど勇壮です。15日夜、各地区の踊り子が、頭に鳥の毛の「カブト」を付け、独特の襦袢・股引を着て、各地区自慢の胴巻きを付けた大太鼓を首からさげ、歌に合わせて練り踊ります。各地区から練りながら香良洲神社に集まり、神社では年配の人から若者まで一体となって歌い踊ります。県指定無形民俗文化財です。

問 香良洲神社
TEL 059-292-3930

円座の羯鼓踊り

(伊勢市円座町)

【開催日】8月15日



写真提供：伊勢市

盆の夜に羯鼓を打ち鳴らしながら踊るかんこ踊り。五穀豊穰、家内安全を祈願し、先祖への感謝と供養のために県内各地に伝わりますが、円座地区の羯鼓踊りは350年以上の歴史があり、伊勢を代表する伝統芸能として知られています。日没後、正覚寺の境内で踊り子たちが白馬の毛でつくられた「シャグマ」をかぶり、腰みのと羯鼓と呼ばれる腰太鼓を下げ、ホラ貝や音頭に合せて踊ります。県の無形民俗文化財に指定されています。

問 かんこ踊り保存会(福村さん)
TEL 090-3381-4457

表紙写真 「横山展望台」(志摩市阿児町)

百五銀行のホームページで、「すばらしき“みえ”」のバックナンバーをご覧ください。
<https://www.hyakugo.co.jp/mie/>